

十島村教育委員会だより 令和3年7月号

変わりがたカラ情報

写真：中之島小・中学校 集合学習「牛の育成」

南北160km
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号



7月・・・学校訪問を終えて 十島村教育長 有村孝一

明るいニュースがあります。「フェリーとしま2」に横断幕が貼ってありますので知っていると思いますが、中之島中出身で、現在鹿児島女子高3年の小林ひかるさんが、北信越5県でこの夏に行われますインターハイに弓道女子個人に出場します。

村の関係では15年前の伊地知綾乃さんのポートに続いて2回目となります。九州大会も出場の見込みでしたが、中止になりました。全国大会は無観客で行われるようです。頑張っていたと思います。

中学校時代はバドミントンしかなく、高校に入ってから始めた競技です。本人のセンスもさることながら、努力はなみなみならないものであったと思います。県の予選で323人が出た中で2位というのは、その表れだと思います。活躍を期待したいものです。

さて、6月29日に諏訪之瀬島、7月6日に小宝島の学校訪問を鹿児島県教育事務所との合同で行いました。コロナウィルス感染症のために、昨年の村政座談会以来の島の訪問でしたが、これからは、学校の行事等に積極的に参加していきたいと思っています。

この2年間十島村に赴任した先生方との交流がないために、顔と名前が一致しない先生もおられる中での訪問でした。おかげで今回それともなくなりました。

諏訪之瀬島では、御岳の爆発にも負けないで、元気な声であいさつをする子どもたちの姿が印象的でした。授業の様子を見ますと、元気いっぱい考えたことを話し合う小学生たちの様子が頼もしく感じられました。

そして、今年から導入したタブレットを使いながら楽しく学んでいました。中学生は、落ち着いた雰囲気、タブレットを上手に使いこなしながら、数学や英語学習に頑張っていました。



ALTの先生も効果的なタイミングで入っていました。

小宝島では、船が着くのが昼になるので、前日の7月5日にTV会議により研究授業を行っていただきました。そうすることにより、後の話し合いがスムーズに進むためです。来年の宝島でも同様にします。島につくとすぐに給食の試食をしました。

村では、この6月から村でとれた魚を山口水産から購入して給食に出しています。

諏訪之瀬島では「タルメの黄金焼き」小宝島では「サワラのみそマヨネーズ焼き」を食べました。どちらも大変おいしくいただきました。

ここでの授業も、タブレットを活用したものがどの学級でも行われており、子どもたちがすっかり使い慣れている様子に驚きながら参観しました。後日学校からの連絡で、水泳学習も最後の着衣水泳で無事に終わったとの報告を受けました。

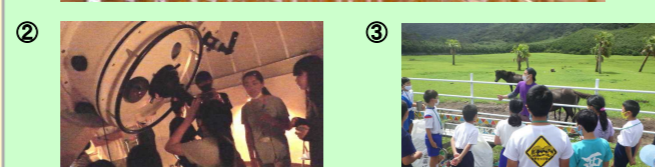


まもなく1学期も終わり、いよいよ夏休みです。コロナ禍で思うようには過ごせないかもしれませんが、「新しい生活様式」に従って、夏休みの計画に沿って元気に過ごしていただきたいです。山海留学生は、久しぶりの家での生活を楽しんでいただきたいです。

「楽しかった」集合学習でパチリ！

6月15日から19日までに中之島で実施しました「七島集合学習の楽しかった様子を各島小学校から送ってもらいました。その楽しさを支えてくださったのは、中之島のみなさんのお力添えのおかげだということが、この写真（○の番号）から伺えます。とてもいい経験になったことでしょう。

- 6月15日（火）ロ之島小学校到着・交流学习
- 6月16日（水）①全島集合・集合学習
- 6月17日（木）②天文台見学 ③トカラ馬を学ぶ
- 6月18日（金）④食料改善の皆様へ感謝
- 6月19日（土）⑤中之島から ⑥フェリーから



【新聞掲載作品】

人生
一粒の種から 八十年
喜怒哀楽を くりかえし
いつかは 散りゆく
花のよう
命の糸は つながれて
一粒のたねから
また新しい命が
生まれる
(中之島小六年 藤谷 萌夏)



令和3年6月21日 南日本新聞「若い目」掲載

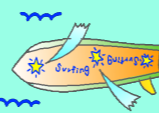
「自然の中でのサーフィン 僕の宝物」
中之島中一年 小原澤 絵理

僕はサーフィンをすることが好きです。十歳の時から父と一緒にサーフィンを練習して、乗れるようになってきました。パドルリングが次第に速くできるようになりました。まだ少しだけ練習をしたいと思います。

「今ではサーフ、サーフ」と波の音を感じることができるようになりました。サーフボードの上で聞く波の音は、サーフィンをしていて、かきかき音です。サーフィンの後、近くの川に泳ぐと、気持ちいいです。

疲れたら、サーフィンの後、近くの川に泳ぐと、気持ちいいです。

このように自然豊かなこの十島村の中之島でサーフィンをする時間は、僕にとっての宝物です。



令和3年6月2日 南日本新聞「ひろば」掲載

「生徒会長」
小宝島中学校三年 安本 風香

山海留学生として三年目となる私は今年、生徒会長に立候補しました。

私はみんなの意見をまとめたり、司会をしたりするのが苦手です。それなのに生徒会長になりました。先陣は、みんなの意見を聞きながら、小中学生をリードして、うまくまとめることができる人でした。

だじゃればかりという人でしたが、みんなを困らせるような行動には厳しい人でした。

中学三年となった今、そんな先輩のようになりたいと思いました。

今年是小宝島で過ごす最後の年です。運動会や文化祭など最高学年として、生徒会長としてみんなを引っ張っていきたいです。まだまだ不安なこともありますが、先生や友達に相談しながら、自信を持って1年を通して、いろんなことに挑戦し、自信を身につげたいです。そして、小宝島小中学校をみんなが仲良く、協力し合える学校にしていきます。

それが生徒会長としての私の目標です。



十島村で学ぶ

宝島中学校 2年 今里 陽巳

「宝島での僕の成長」

6月18日の国際理解活動で、ALTのマット先生のお母さんとテレビ電話で話しました。ICTを活用し、スカイプでつなぎ、宝島とニューヨークの遠く離れた距離を感じさせない感覚に感動しました。内容は、英語で自己紹介をしてから、宝島について紹介するという授業を行いました。

日本語を全く知らない方に、今自分たちが知っている英語でどう伝えるかを考えるのが最初の関門でした。中学生5人で単語や、何について話すかを共有し、文を仕上げました。

そして発表の時。実際に英語で伝えると、ALTの先生のお母さんはうなずいて返してくれました。その後、「おもしろそう」と言ってくださり、英語がしっかり伝わったことに、心の中では「やった、伝わった！」とガッツポーズを決めていました。



ICTを活用し、とても凝縮された50分間だったと思います。将来、こういった経験を生かして、外国人の方とも意思疎通を図っていききたいと思います。

【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】 教諭 井之口 義浩

諏訪之瀬島に昨年赴任し、現在多くの島民の方々を支えられながら安心して生活することができています。コロナ禍でのスタートではありましたが、諏訪之瀬島の美しい自然を十分に味わい、素直で明るい子どもたちに囲まれて充実しています。島民の方々の暮らしぶりを見てみると、お互いに助け合う心遣いが日々あちこちで感じられます。子どもたちへは勿論のこと、われわれを含めて島民同士の「心地よい関係性」が保たれています。例えば島民の住宅が壊れた時などすぐに声をかけ合い、修理します。住民同士がお互いの体調などを含め、日常生活を知っているからこそ困っている時は当たり前のように助け合い、支え合っています。そのような姿を見てみると島民全員が大家族のように思えてきます。一人一人の生活ぶりや考えは違っても、「この地で暮らしていく」ここは自分達にとって大切な居場所という思いが根底に流れているのを感じることが出来ます。島民にとっては「人と人との心地よいつながり」こそが何よりも大切で、「人と人との心地よいつながり」で幸せを感じていたいと思っているのではないのでしょうか。この1年島民の方々と触れ合う機会に制限はありましたが、私の日課ともいえる散歩途中で交わすあいさつや立ち話を通して「心遣い」を感じる事が出来ました。これからも一生懸命頑張ります。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

十島という「最高の場所」で「最高に輝いて」。